

お客様に信頼される商品と知識、そして 誇りの持てる会社を目指して

有限会社 田宮園芸

代表取締役 田宮慎二

HP : <http://www.tamiya-engei.jp>

はじめに

前社長の義父 田宮■■■■は、果樹（梨：1.2ha）の生産者でした。

昭和 53 年に植木の生産を始め、梨と植木の複合経営に変更しました。その後、島根国体、鳥取国体等の公共工事で植木の需要が増えたことを受け、昭和 60 年に果樹部門を廃止し、植木の卸売も始めました。

平成元年には有限会社田宮園芸を設立しました。設立当初は鳥取、島根から九州、関西、関東等全国へ植木の出荷をし、経営が安定していました。しかし、1990 年初頭のバブル景気が終わった頃から植木の需要が減り、追い打ちをかけるように公共事業の縮小も受け、経営は悪化しました。経営を安定させるために民間需要のある樹木とグランドカバー類の生産を経営の柱にしました。

さらに、平成 25 年頃から果樹のエスパリエ仕立てとコケ栽培を取り入れたことで経営が安定し、将来の経営の方向性が定まり、地元造園会社向けと全国発送向けの生産と販売を組み合わせた経営を行っています。

平成 29 年 10 月に私 田宮慎二が社長になり、後継者として会社を引き継ぐことになりました。そこで、機械の導入による従業員の労力の軽減を図り、安定した労働力の確保、生産性の向上、経営の安定を図ることで、規模拡大を目標とし、この度プラン作成に至りました。



果樹（さくらんぼ）のエスパリエ仕立ての大型コンテナ栽培

1 経営等の現状と課題

(1) 生産、経営の現状 (平成 29 年)

作目	面積	生産量
植木	200 a	1,000 本
生垣樹	35 a	6,000 本
エスパリエ仕立て	15 a	150 本
コケ	50 a	40 a
グランドカバー類	30 a	150,000 鉢
植木卸		47,000 本
生産販売合計	330 a	

- * 生垣樹の種類は、ウバメガシ、シラカシ、アラカシ、レッドロビン、モミジなど
- * エスパリエ仕立てとは、サクランボや姫リンゴなど果樹をコンパクトに仕立て、鉢植え利用ができ、収穫を楽しめるよう工夫しています。ホームページで紹介していますので、ご覧ください。

(2) 労働力

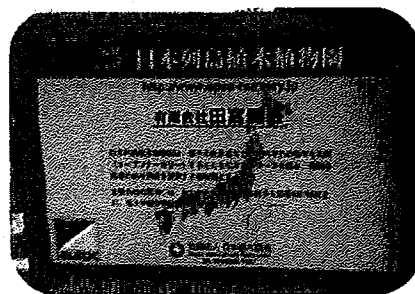
代表取締役 (本人)	田宮 慎二	常時雇用 4 人
		臨時雇用 5 人
		(のべ 450 人役)

(3) 農業機械および施設状況

機械・施設名	台数・棟数	能力・面積
スピードスプレイヤー		
ミニバックホー		
フォークリフト		
ビニールハウス		
2t トラック		
軽トラック		
灌水用ポンプ		

2 目標

社団法人日本植木協会の進める「日本列島植木植物園」に加入し、その理念に基づいた活動を行うことで、山陰地区の植木生産販売のシェア率向上と生産農家の所得向上を図りながら、地域貢献できる会社を目指します。



「オープナーセリー 日本列島植木植物園ウェブサイト」より抜粋

北海道から沖縄に至る列島4千キロに点在する生産圃場で、地域性を活かした植木を生産しながら圃場を地域児童の学習園や見本園、憩いの場として一般の人々に公開し、地域に密着した活動を展開する。また、貴重な園芸品種群の種の保存や樹芸文化の伝承保持等に貢献しようとするものです。

(1) 販売力の強化と経営の安定化を図り、全国へ営業を展開します。

全国に販売する品物を生産するため、品質の向上と自社生産品の増産を行います。そのためには、機械導入で省力化を図り、低コスト生産を進めます。

特に、①需要の高い「コケ」の増産、②所得率の高い「果樹のエスパリエ仕立て」の大型コンテナ栽培に力を入れ、経営の安定と所得の向上を図ります。

(2) 造園、緑化業界に頼られるような高い知識を持つ人材を育てるため、従業員の資質向上に努め、研修を行います。

3 課題と対策

(1) 土作りの合理化

① エスパリエ仕立てなど樹木の大型コンテナ栽培は栽培期間が長く、通常3～5年かかります。この大型コンテナ栽培で一番大事なのは土作りです。良い質の土なら栽培期間中、順調な生育をします。しかし、悪い土であれば長い栽培期間中、病気が発生しやすく、水管理がむずかしくなり、ロスも多くなるので、土作りは最重要な作業となります。

そして、土作り作業は重労働で体への負担が多くかかります。

② また、植木を出荷する時は根鉢を付けるため、出荷するたびに土が減り、地面が下がります。そのため、出荷後に客土を入れませんが、土は重く、大量に入れるため重労働でとても大変です。





参考写真：グラントカバー類、多肉植物の栽培

【土作り作業】

グラントカバー類や多肉植物の栽培用には、1,000ℓ 2万円程度で品質の良い配合用土を購入しています。大型コンテナ用の土は、この購入用土の残土をリサイクルして作っています。

リサイクル用土+水マサ土+ピートモス+肥料をトラクターで切り返し（混合）します。一度に作る大型コンテナ（容量175ℓ）用の土は、約2,000ℓ=20コンテナ分です。肥料分が流出するので、作り置きはできません。年間10回程度この作業をし、土を運びます。

【土の運搬作業】

現在は、バックフォア（バケット容量30ℓ）で10杯程度の土を軽トラックの荷台に載せて運び、現場（圃場）へは手作業で土を降ろしています。移動距離は50～200m程度ですが、バックフォアの移動スピードを考慮すると軽トラックに積み替えた方が早いです。

【ホイールローダーを導入し、作業を合理化】

今後は、ホイールローダー（バケット容量400ℓ）を導入し、積み替えをせずに土を現場（圃場）へ運び、作業時間の短縮と労力削減を図ります。

ホイールローダーなら凹凸の大きな現場でも進入でき、一度に軽トラック一台分程度の土を運ぶことが可能となります。

そのため、土の移動作業を省力化し、従業員の労力軽減のためホイールローダーの導入を図ります。

（2）灌水作業の省力化

大型コンテナ栽培の圃場 約1haは、細やかな灌水作業が不可欠です。特に、現在力を入れているエスパリエ仕立ての大型コンテナ栽培は、全て手灌水しており、時間がかかり大変です。

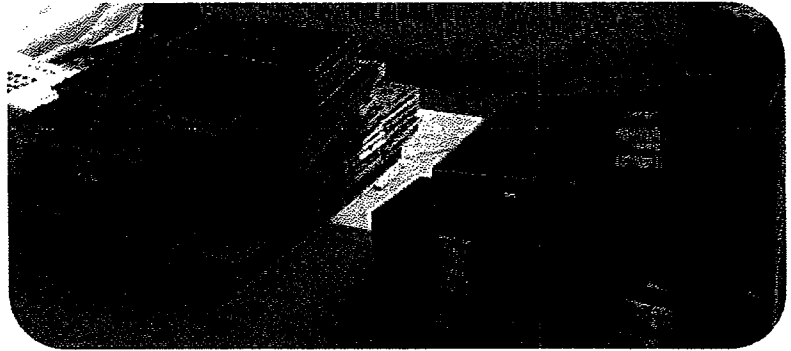
今後は、平成32年に畑灌設備が設置される予定なので、これに併せて自動灌水装置を導入し、省力化と経費削減（電気代の削減）を図る予定です。

(3) 「コケ」出荷作業の省力化と規模拡大

近年、コケの需要が高く、北は秋田から南は鹿児島まで出荷しており、生産を拡大中です。現在 50 a の圃場を 100 a に倍増し、 円程度の売上増加を計画しています。

コケは露地圃場で栽培しますが、出荷前にトレイの大きさに合わせてはぎ取り、しばらく養生して出荷します。

生産拡大するためには、現在手作業で行っている「はぎ取り」作業を機械化し、出荷作業の省力化を図りたいと考えています。



(4) 老朽化した機械・設備を更新し、修繕費の削減

機械・設備が老朽化しており、修繕費が年間 200 万円以上かかっています。機械が壊れると修繕費がかかるだけでなく、作業の遅れや従業員がケガをするなど危険を伴います。経費削減と従業員の福利、厚生のために機械・設備の更新を計画的に進めたいと考えています。

(5) その他の課題と対策

① 圃場管理の改善

果樹のエスパリエ仕立ては、高付加価値商品として独自価格で販売ルートの開拓を行っています。数は 150 本 → 200 本へ増やす計画です。また、単価を維持するため、大型コンテナの配置間隔を広げて更なる品質の向上を図ることで、 円程度の売上増加を計画しています。

② 従業員の研修による資質の向上

県内生産者を対象とした栽培講習会・生産圃場の視察を行い、従業員教育に力を入れます。講師は義徳会長。他の生産者との情報交換、圃場を見せていただくことが従業員の資質向上に繋がります。

また、各作業の責任者を明確化し、従業員に責任を持って管理させることで生産物の品質向上を図ります。

③ 規模拡大

農地の集約を進めており、小竹集落で規模拡大を図ります。

エスパリエ仕立てとコケを中心に規模拡大を図り、圃場面積は 330 a → 445 a に増やす計画です。年間売上高を 円程度増加したいと考えています。

4 今後の具体的な取り組みと役割分担

事業内容	事業費	H31	H32	H33	連携機関
ホイロローダー	630 万円	◎			県・町・本人
自動灌水装置 コントローラー付	237 万円		○		県・町・本人
コケ堀取機	100 万円			○	本人
スピードスプレイヤ (更新)	400 万円		○		本人
ビニールハウス (間口 5m 長さ 45m)	250 万円			○	本人
2t トラック (更新) ユニック等改造費込み	750 万円		○		本人
軽トラック 4WD (更新)	120 万円	○			本人
事業費合計	2,487 万円	750 万円	1,387 万円	350 万円	
がんばる農家プラン事業費合計	630 万円	630 万円	0 万円	0 万円	

* ◎はがんばる農家プラン事業で行うもの。

* がんばる農家プランで行う事業の本人負担 1/2 部分については、自己調達の手配。